

絆

千畑小学校
PTA交流部だより
次世代に
つなぐ

発行：令和4年3月10日
編集：千畑小PTA交流部
印刷：(有)グラフィックコミュニケーション



平成19年交流の様子(せせらぎ公園にて)

※ドローン撮影



御田小学校との交流について

PTA会長

前年度と同様に、本年度も秋田と東京を行き来する交流事業は中止になりました。このコロナ禍ですのでやむを得ないのですが、私は残念だという気持ちの方が強いです。理由としては、普通の生活では体験できないことを、親としても色々体験させていただいたからです。

私が交流事業に関わるようになったのは、上の娘が四年生になった頃からです。最初はよくわかっていないこともあり、不安の方が大きかったのですが、実際に受け入れや東京訪問に参加して、関わることでよかったです。と思っています。

受け入れ初日は、畑でジャガイモ掘りをしたり花火で遊んだりしました。特別なことは特にしていません。ただ、東京ではなかなか行うことのできない経験をしてもらったのかなと思います。楽しそうに交流している子供たちの笑顔は、私たちの家族をも笑顔にしてくれました。私にとっても楽しい思い出です。

こんなに継続している交流事業は他にはありません。来年度以降もぜひ継続してほしいと思います。



五感で感じること

松並木の会会長

御田小学校との交流事業が始まってから、今年で四十五年になると聞きました。残念ながら、昨年に引き続き今年も事業を実施することができなくて残念に思います。今年こそ参加したいと思っていた子供たちや保護者の皆さんは、千畑小学校、御田小学校ともに多くいるのではないのでしょうか。

四十五年前と現在では、お互いの地域の環境が大きく変わったと思います。御田小学校については、私はよくわかりませんが、千畑の方は、目に見えることはわかりませんが、生活スタイルも少しずつ変わっていると感じています。

御田交流は三、四日と短い日程ですが、参加した子供たちにとっては、学校の前の松並木や校舎、それぞれのホームステイ先の生活で目にした新鮮なことに同時に、耳から入る蝉の声、山女魚をつかみ取りさせたせせらぎの音、家の前で打ち上げた花火の音と火薬のにおい、間近で見たホタルの輝き等々、その後の人生に、心地よいスパイスとなったと思います。

価値あるこの事業が、この先も続いていくことを、心から願っています。





「絆」を繋ぐ

校長 金子 徹章

二年ぶりに千畑小に赴任し、楽しみなことのついでに御田交流がありました。教頭として勤務していた四年間、御田交流の事務局として受け入れに関わらせていただきました。最も苦労したのが、受け入れ家庭の確保でしたが、交流部員の方々の熱心な働きかけと、保護者の皆様のご協力のおかげで、受け入れを継続することができました。その間、御田小学校を三回訪問させていただきました。平成二十八年には四十周年記念式典が御田小学校で行われ、祝賀会は東京湾に浮かぶ二艘の屋形船を会場にして盛大に行われました。お台場の夜景を見ながらの祝宴は、今も強く心に残っています。

コロナ禍のために交流を行えないことが残念でなりません。御田小の子供たちと一緒に魚のつかみ取りをしたりおにぎりを食べたりする楽しさや、東京を訪問して東京タワーや高いビルを見上げたときの驚き、そして確かな「絆」を結ぶ喜びを、子供たちには是非味わわせたかったと思います。だからこそ、今は、交流の再開のために、交流事業の歴史や意義、その素晴らしさを伝え、「絆」を繋ぎ続けることが大切です。四十年以上にわたって先輩の方々が築いてくださった「絆」は、これからも繋ぎ続けてまいります。

【御田交流事業覚書】

交流事業の経緯

昭和五十二年八月、御田小学校の呼びかけで自然に恵まれない都会の子供たちに、自然のすばらしさを体験させることを目的に、御田小学校の児童十五名が千屋小学校を訪問したことから始まる。当時、千屋小学校出身の御田小保護者（当時、御田小PTA会長 加藤弘氏）が、同級生である千屋小保護者に働きかけたのがきっかけだった。

昭和五十五年二月、千屋小からも二十二名の児童が御田小を訪問し、相互交流が開始された。

十周年（昭和六十一年八月二十日）

記念式典・祝賀会

会場 千畑町農村環境改善センター
※御田小の訪問団が
千屋小親子運動会に参加



記念式典での高橋千畑町長のあいさつ

二十周年（平成八年七月二十七日）



記念式典会場
御田小学校

三十周年（平成十八年七月二十九日）



記念式典会場
千畑交流センター

四十周年（平成二十八年八月五日）



記念式典会場
御田小学校



記念祝賀会会場
東京湾屋形船（2艘）





交流の歌「絆」について

小原 靖

平成九年は千屋小学校と御田小学校との交流二十一年目の年でした。私が教頭で赴任したある日のこと、当時の高橋侃校長から「交流の歌を作りたいが……」と尋ねられました。前年の「交流二十周年」が東京で盛大に行われ、この交流はここにしかない事業で、こんなに長く続いていることに感動したというのです。交流の周年記念式典は、十年ごとに秋田と東京で交互に担当、開催してきました。

高橋校長は音楽にも精通しており、作曲家にも相談できるので、曲は当方で担当し、詞は、御田小学校校長が国語の教師なので担当してもらおうという企画でした。両校で協力して作り、歌い継がれていくことを願ったプロジェクトでした。

こうして、佐藤睦郎作詞・高橋侃作曲・鳥森道邦補作の「絆」が交流二十一年目の夏から歌い継がれてきました。

今年で四十五年。東日本大震災も乗り越えました。コロナ禍にあって、直接交流の中止もありましたが、心の絆が次へと確実につながっています。みんなで次のステージに進みましょう！

小原 靖氏

プロフィール

平成九十一一年度

旧千屋小学校教頭

平成二十一年二十四年度

旧千屋小学校校長

平成二十五年年度

千畑小学校校長

現在は、水環境マイスターとして町内外で活躍です。

平成二十九年度の「全国水の郷シンポジウム」の際には、秋篠宮様を六郷の清水にご案内しました。五年生の総合的な学習の時間にもご指導いただいています。

また、「児童生徒県南美術展」の審査員も長年お務めになつていきます。



Google Earth



東区立 御田小学校

絆

佐藤睦郎 作詞
高橋侃 作曲
鳥森道邦 補作

一 平安の歴史に残る 三田郷の月の輝にたてる学び舎

西に富士 東に港
海原へ 世界を結ぶ

東の都

武蔵野の 自然と歴史 しのはせる

ああ 御田小は 三田台の丘

二 真昼岳 歴史に残す守り神

山の姿よ 雄々し千畑

仙北の平野潤す 丸子川

豊かな実り

奥羽の里よ

青い空 豊かな緑 満ちあふれ

ああ 千畑は 赤松並木

三 灯火を 守り続けた幾年も

親のやさしさ 愛のしるしか

清らかな 川の流れに

勝るとも 手と手を合わせ

子どもの国へ

ふるさとよ 心の絆 つながり

ああ 友と友 迎えん永遠に

Google Earth



美郷町立 千畑小学校



御田交流の思い出



多くの出会いに感謝

(二年)

息子と娘が御田交流に参加してから十数年…三十人以上の子供たちを受け入れ、様々な方々や場所との出会いがありました。

ある年、家に泊まりに来た男の子がいました。流暢な(?)秋田弁を話す我が家の祖母の熱烈な歓迎を受けた後、不思議そうな表情で「この人なに人(じん)?」。訛りの強い祖母の言葉は外国語に聞こえたようでした。忘れられないエピソードは、他にも多々あります。

また、交流した家族の方々とは今年も年賀状のやり取りをしたり、プライベートな旅行の際にお会いしたりし、互いの成長を感じ合っています。

今はコロナ禍で自由な往来が難しい状況ですが、今までのようにお会いして思い出話に花を咲かせたいです。

そして、今度は、私の孫も伝統ある御田交流に参加してくれることを楽しみにしています。このすばらしい交流が、これからも未来の子供

たちに継続されていくことを心から願っております。

千畑と御田

そして「絆」

(六年)

コロナ禍にて、御田交流が見合わせないなっていることを非常に残念に思っているところです。

私は、御田訪問の第一期生です。当時友達となった彼とは、中学、高校、社会人となつてからもずっと交流しています。彼は現在教員をしており、子供たちには秋田の魅力を教えてくれていると思います。

我が家は、残念ながら受け入れをすることが難しかったのですが、私の仕事で関係者と関わりをもつことができ、うれしかったです。

娘は今年で千畑小学校を卒業となりますが、いつか学校の枠を越えて、子供同士を会わせ、お互いの親子の糸がながるような明るい社会が来ることを願っております。



令和元年 「とりかご」はいつも大人気

御田交流のすばらしさ

(令和二年度 卒業生)

私は、御田交流を通してたくさんのお話を学ぶことができました。普段関わることのない人たちとも交流を深めることで、多様性を知り、互いに絆を深めることができました。また、実際に東京を訪問すると、新しい発見がいっぱいでした。地元とは違う光景、見たことのない食べ物…全てが新鮮でした。

こんなすばらしい交流も、今は新型コロナウイルスの影響でできません。本当に辛いことです。ですが、私は、新型コロナウイルスの感染が収まったら、また交流を再開してほしいと願っています。交流した経験は、今後必ず役立つし、大切な思い出の一つとなります。今はできなくても、いつか絶対に行けるはず。御田交流は、これからも永遠に続いてほしいです。



平成30年 御田小学校にて

交流の思い出

六年二組

私は四年生のとき、東京交流に参加しました。一番の思い出は、最終日に御田小学校の校庭で、みんなで水遊びをしたことです。水鉄砲を撃ったり、水風船を投げて遊んだりして、とても楽しかったです。

水遊びの後に食べたカレーライスも思い出に残っています。思いっきり遊んだ後のカレーは格別のおいしさでした。帰りの新幹線の中でも、「また行きたいな。」と思っていました。

翌年、新型コロナウイルスの影響のため、御田交流は行われませんでした。そして今年も新型コロナウイルスの影響で中止となり、とても残念でした。

私は、もう御田交流には参加できませんが、これからも御田小学校との交流を続けてほしいです。

平成二十九年 雨の受け入れ

(六年)

令和三年夏、本来であれば行われるはずであった御田交流は、今年もコロナ禍の影響でやむなく中止となってしまいました。直接的な相互交流の中止は、二年連続となり、とても静かな夏休みとなりました。私が携わるようになってから、中止となったことはありませんでしたが、大雨により大幅な日程変更を強いられた年がありましたので、時系列的に少々回想してみます。

平成二十九年七月、御田小学校訪問団の来校初日、日中は好天に恵まれ、暑い中での対面式が行われました。終了後、各家庭へ別れホームステイが開始。

二日目の朝は、どんより曇り空。雨の予報でしたが、午前中の「魚のつかみ取り」ははるうじて雨に当たることなく終了。午後から、怪しく静かに降り始めた雨は、夜になる頃に強く降り始めました。

三日目の早朝から滝のような雨が断続的に降り、大雨警報の発令。更に美郷町の一部に避難指示が発令されるなど大騒ぎ。にわかには帰りの新幹線のことを心配になりました。

案の定、秋田新幹線が豪雨と土砂崩れにより運転見合わせとなつていくことから、急遽日程変更。台所

部隊の機転で、予定していた「野菜パーティーとおにぎり作り」は中止にして、昼食は車内でも食べられる「野菜とおにぎりプレート」に大変身。短時間で全員分を用意した台所部隊の機動力には感服しました。

そして、盛岡駅に行かないと新幹線の予約ができない状況になっていることから、町が用意したスクールバスにて、盛岡駅に向かうことになりました。しかし、国道十三号線が、土砂崩れと川の氾濫で通行止め。そこで、通行止めがかかっている秋田道を利用し、北上経由でとりあえず盛岡駅へ移動することになりました。移動の途中も雨が切れ間なく降り続き、川もかなり増水状況でした。

御田訪問団は盛岡駅で何とか新幹線の座席を確保し、午後二時五十分の新幹線で無事に帰京しました。

そんなこんななのドタバタで、平成二十九年の交流は忘れられないものとなりました。

足掛け四十五年となる伝統のある御田交流。世代が変われば思想も変わりますが、この事業は変わることもなく続いていくことを願います。



平成26年 東京 訪問 新幹線の車中で



平成26年 図書室で昔っことを聞く



平成22年 清水観察



平成24年 野菜収穫体験



平成26年 みんなでのり巻き作りに挑戦



平成26年 御田小の校庭で水遊び

4年 学習交流

オンライン交流の様子



御田小へ送った新聞



ぼくは、自分の説明のところを、がんばって暗記して、下を見ずに画面だけを見て言うことができました。オンラインで交流したけど、コロナがなかったら、本当に御田小の人たちと会って交流したかったです。御田小の人たちがおもしろくて、みんなでもらったことでした。

私がオンライン交流でがんばったことは、御田小の四年生に「ミスモ」について教えたことです。また、この交流で、御田小のことをよく知ることができました。御田小の四年生の中には半そでの子もいたのでびっくりしました。質問したことについて、はっきりわかりやすく伝えてくれたので、すごくわかりやすかったです。このオンライン交流は一生わすれられません。一生の宝物です。

オンラインで交流した感想

御田小から来た新聞でわからないことがあったけど、今日の交流でわかりました。みんなで質問をして、いろいろなることがわかったのでとてもよかったです。また交流する機会があればいいと思います。ぼくは、説明のとき、場所を指差しながら話すことができました。がんばりました。

すごいと思ったことは、いろいろな遊具があることです。ジャングルジムやのぼりぼうがあつて、とてもうらやましいです。また会う機会があったらぜひ会いたいです。自分の発表では、いろいろな人に聞かせるように言葉のつぶをはっきり言えたのでよかったです。

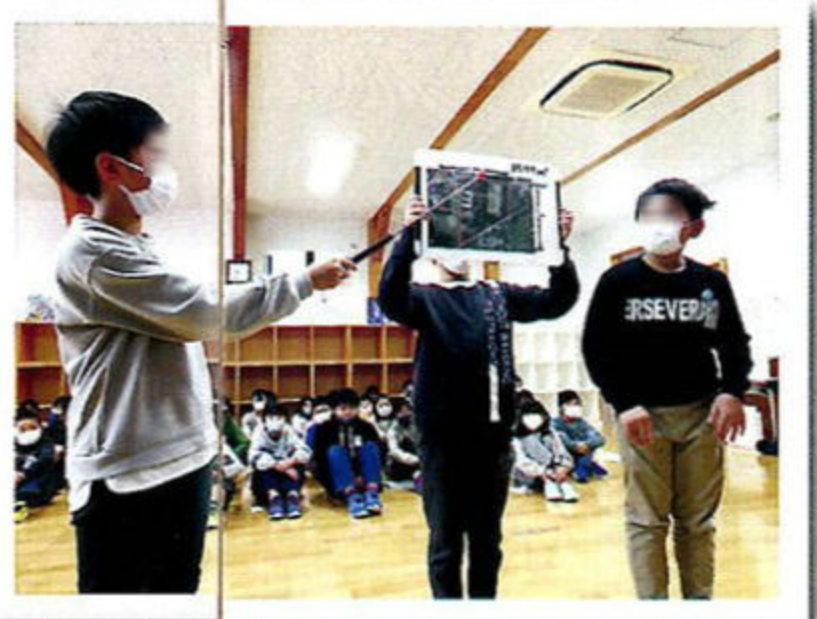
御田小の給食で、いろいろな国や県の食べ物が出ていて「すごいなあ」と思いました。御田小の人たちがやっている「てんか」の遊び方がわかったので、今度みんなで遊んでみたいです。自分が発表するときには、御田小のみんなに聞こえるような声で発表できました。

今日、御田小の四年生とオンライン交流してびっくりしたことは、ふれあいまつりで「美郷まんま」の屋台が出ていたことです。そして、うれしかったことは、「二つあります。わたしが紹介したプールの遊びを、やってみよう」と言ってもらったこと、「新聞の字がきれい。」と言ってもらったことです。



ぼくは発表をがんばりました。大きな声で発表できたのでよかったです。御田小の四年生の中には、半そでを着ている人がいました。それで、「寒くないですか?」と聞いたら、「寒いです。」と答えたので、寒いのにどうして半そでを着ているの不思議に思いました。ぼくは、オンラインでの交流をもっとしたいなと思いました。でも、次は実際に会いたいなと思いました。

私は御田小の人たちの私たちの新聞を見ての感想が一番心に残っています。自分が一生けん命伝えようとしたことが伝わり、その中のいいところを覚えてくれて、すごくうれしかったです。来年は実際に会って交流したいと思っています。そして、スマイル学年についてもっと知ってもらいたいと思います。御田小のことももっと知りたいです。オンラインでもこんなに伝えることができるって初めて実感しました。



私は、御田小の皆さんと交流してとても楽しかったです。千畑にはない行事やものなどを知ることができ、新聞ではわからなかったことをたくさん知ることができたのでよかったです。今度より御田小のことを知ることができました。

それから、御田小の人たちがわたしたちの新聞を読んで「字がきれいです。」と言ってくれて、とてもうれしかったです。ウイルスがなくなったら、今度は御田小に行つて、いっしょにいるのを楽しみたいです。

御田小の四年生とオンライン交流して、御田小のことをたくさん知ることができました。私たちの方でも、もっと伝えたいことをわかりやすく説明することができました。御田小の給食の世界の料理は、とてもおいしそうに食べてみたいと思いました。ペトナムの料理や秋田の料理を食べたいなと思います。それから、御田小の人たちがわたしたちの新聞を読んで「字がきれいです。」と言ってくれて、とてもうれしかったです。

思い出のアルバム



平成27年 「魚とったど〜!」



平成27年 かき氷おいしいね!(御田小で)



平成27年 楽しい! やまめのつかみ取り



平成27年 水遊びの前に (御田小で)



平成27年 体育館で野菜パーティー



平成29年 やまめを焼くのはお父さんたちの仕事



平成30年 「いらっしゃ〜い!」



平成30年 「美郷まんま」でおにぎり作り



平成30年 ザリガニ釣りを体験

永遠にサキホコレ!

交流部部长

(六年)

「コロナ禍にあつても交流の絆を絶やさない」と、今年度もこのような交流部便りを作成することができました。この便りは、交流事業未経験の方にもわかりやすいように工夫してあります。千畑・御田両PTA会員の皆様に目を通していただければ幸いです。

さて、今年度も広報の活動だけで終わるのかと諦めかけていましたが、感染が比較的落ち着いた年の瀬に、二つの交流を行うことができました。一つは、四年生が総合の学習の中で行ったオンライン交流です。初めての試みだったと思いますが、とてもよい交流ができたと思えました。そして、もう一つは、御田小学校関係者の視察訪問です。十二月二十五、二十六日の両日、御田小学校の校長先生はじめ七名の皆さんがいらつしやいました。二十五日に開かれた「交流再開祈念」の懇親会の温かい雰囲気からは、四十五年間多くの方々を支えられてきたことが伝わってきました。翌日は、千畑小図工室にて「美郷町菓の会」の皆さんのご指導による注連飾り作りがありました。こちらもアットホームな雰囲気でした。

我が家は一人娘で、間もなく卒業を迎えますが、残念ながら受け入れはできませんでした。しかし、一年生のときがちょうと四十周年の年に当たり、当時の交流部の皆さんが野菜パーティーでかき氷を振る舞うなどして盛大に歓迎していたことを懐かしく思い出します。毎年夏になると娘は「野菜パーティーに行く!」と満面の笑みを浮かべて出かけたものです。

明けない夜はありません。いつか必ず日常を取り戻す日が来ることでしょう。そんなときに、今年度の活動やこの「交流部だより」そのものが何かの役に立てるのかも知れません。次の五十周年に向けて、千畑・御田の両小学校の交流がますます咲き誇ることをお祈りいたします。

本編の発行にあたり、松並木の会(会長様)をはじめ、快く寄稿してくださいました多くの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。